

【6月6日(水) 】

- 山本 和さまお話し
- パネリスト自己紹介
- パネルディスカッション
- まとめとふりかえり

当日お迎えするゲストの皆さまです。ICU/大学院の卒業生です。
元国連職員の会（AFICS）の活動の一環として参加していただきます。

■山本 ^{かのう} 和さま

学習院高等科から ICU へ進み、卒業後に日本銀行入行。フルブライト留学により、Columbia University で経済学 MA を取得。日本銀行に戻り、1974 年から 国際通貨基金（IMF）アジア局エコノミスト、日本銀行ニューヨーク事務所次長を経て、1988 年から国際連合児童基金（UNICEF）財務局長（Comptroller）をつとめる。帰国後 1993 年より 国際基督教大学教授、学校法人国際基督教大学理事を歴任。

■森田 宏子さま

国際基督教大学で異文化間コミュニケーション学び、その後、デンバー大学にて国際関係学修士号を取得。1979 年に、国連開発計画（UNDP）ハイチ事務所で JPO として国連職員のキャリアをスタートさせる。その後、開発のための国連科学技術センター（UNCSTD）で 10 年間勤務。1993 年に国連経済社会局・持続可能な開発部へ移り、情報分析課・課長、学術誌 National Resources Forum の編集長、地球サミット+5、ヨハネスブルグ・サミット、リオ+20 に事務局の一部として関わる。2009 年より国連事務局経済社会局（UNDESA）小島嶼国課課長をつとめる。

■高瀬 千賀子さま

学習院女子部高等科から United World College of South East Asia（シンガポール）へ進み、ICU 卒。英国サセックス大学大学院にて開発経済学修士号を取得。1983 年から国連工業開発機関（ジャカルタ）アソシエートエキスパート、翌年より国連事務局に勤務。国際経済社会局開発研究・政策分析部では中期予測を担当、マクロ経済・社会政策分析部では基幹出版物 World Economic Survey の執筆に携わる。その後、政策調整・持続可能な開発局持続可能な開発部に移り、主に消費・生産の持続可能な行動への移行を担当する。この間、生物多様性条約事務局に約 3 年間勤務。国連に戻り、2002 年にヨハネスブルグ（南アフリカ共和国）で行われた World Summit on Sustainable Development の準備および開催に携わる。UNCRD 所長就任前は、国連経済社会局経済社会理事会支援・調整部において政策調整課副課長（政策分析担当）として主に経済社会理事会の運営に携わる。2011 年 3 月より所長代行、2012 年より 2017 年まで国際連合地域開発センターUNCRD 所長をつとめる。

■山崎 節子さま

昭和女子大学付属高校、青山学院大学から Occidental College（米国）に留学、ICU 大学院行政学修士取得。外銀勤務後、国連開発計画（UNDP）フィリピン事務所に赴任以来、UNDP ニューヨーク本部財務部部長室付補佐官、UNDP 中国事務所代表補、国連ボランティア計画（UNV）ボン本部地域課長を経て、UNDP ラオス事務所副代表、UNDP ベトナム事務所長、UNDP カンボジア事務所長を務める。国際機関事務所運営、開発援助変革と組織改革を指揮。ベトナムでは国連改革パイロットに参画。現在京都大学大学院総合生存学館特任教授。